

1 心臓超音波検査により発見された非可動
2 性・無茎性粘液腫の一症例
3

4 石橋里子、町田幸雄、亀山雅弥、野本剛史、(日本
5 医科大学千葉北総病院医学検査部中央検査室)
6

7 【はじめに】心臓腫瘍は稀な疾患であり、その原発
8 性心臓腫瘍の半数は粘液腫である。粘液腫の4分の
9 3は左心房に発生し、典型的な粘液腫は左房中隔に
10 有茎性を持って発症し、弾性に富み、心拍動に同期
11 して可動する。今回、我々は健康診断により心房細
12 動を指摘され、精査目的に実施された心臓超音波検
13 査により発見された非可動性、無茎性の粘液腫の症
14 例を経験したので報告する。【症例】75歳、女性、
15 血液検査等特記事項なし。健康診断で心房細動を指
16 摘され、当院内科受診。心臓超音波検査により左房
17 内に腫瘍を認め入院となる。【心臓超音波検査所見】
18 左房内に非可動性、無茎性の約21×28mm大の腫瘍
19 (+) 内部エコー不均一であり、石灰化を疑う微細
20 なstrong echoを認めた。粘液腫好発部位ではある
21 が、古い血栓を疑うエコー像であった。【臨床経過】
22 画像検査では粘液腫と他の腫瘍との鑑別が困難であ
23 ったが、腫瘍が粘液腫好発部位であることから粘液
24 腫を強く疑い、当院胸部外科にて手術となる。摘出
25 後の病理組織検査で粘液腫と診断された。【考察】今
26 回、我々が経験した粘液腫は左房中隔にへばりつく
27 様にして存在し、腫瘍内部は粗雑かつ石灰化を認め
28 た。また、心拍動による可動性も認められなかった。
29 本症例では前述した典型的な粘液腫の所見は認めら
30 れず、心房細動が指摘されている事から粘液腫か血
31 栓かの判断は困難であった。本症例が強い石灰化を
32 伴い非可動性であった原因として、腫瘍の線維化、
33 器質化が進行している事が考えられる。遺伝性の粘
34 液腫は20代半ばの男性に多く発生し、遺伝性ではな
35 い粘液腫は女性に多く、特に40~60歳の女性に発生
36 するとされる。本症例のように高齢で発見される粘
37 液腫と若年で発見される粘液腫では、可動性そして
38 弾性等に差異があるのではないかと推察され、さら
39 なる症例の収集に努め今後の課題としたい。